

地域防災の見直しと、力をあわせた復興を

災害の少ない岡山に突然起

こった7月の豪雨災害。記録的な大雨により、県内各地に大きな被害が生じました。避難勧告が出た地域も多かったと思いますが、い



たくさんの作業もみんなでやると進みます@真備町Hさん宅

示された避難場所が遠かったり、高齢者の移動が大変であったり、発災後に初めてわかる防災体制の足りなさもあったのではないのでしょうか。

県内でも特に被害の大きかった真備町へ、水が引いた直後に復旧作業のお手伝いに伺



被災数日後、小田川に近い親戚宅を訪ねたHさん

いました。県内の状況を知るためには、被害の大きい地域で自分が動き、課題を感じ取ることが大事だと思いました。

真備町に入ると、まるで津波の被災地に来たと錯覚するほど、町中が泥に覆われ、また住民の方たちは大きなショックに

包まれていました。知人の家で泥出し作業を手伝う中で、大工としてアドバイスをしたことが喜ばれ、同時に家の復旧のための情報が足りていな

い現状を感じました。2日後に真備町に行った時には、復旧作業のノウハウをまとめたパンフレット(震災がつなぐ全国ネットワーク発行)を準備して、ご近所や避難所で配ったりしましたが、今度はそこに土壁の情

報が足りていないことがわかったので、翌日は県から紹介された京都のNPO法人の協力を得て、水害にあった土壁の扱い方をまとめたマニュアルを作成しました。この情報をFacebookで公開したところ、200件以上のシェアがあり、また被害のあった地域の県議さんにも党派を超えて情報提供をさせていただくことができ、災害時にこういう動き方もできる県議という立場をありがたく感じました。(土壁マニュアルは県のHP(建築指導課)にも掲載されています)

県社協やNPOセンターが中心になって、ボランティア受入れ

や民間支援団体のネットワークも新たに構築されました。これまでに県内で延べ3万名を超えるボランティアが参加され(7月22日現在)、大きな力となっていますが、今後もきめ細かな支援と復興に向けた粘り強さが求められています。



浸水した土壁を運び出します

おおつかあい・プロフィール
1974年1月10日生まれ。旭操小学校、操南中学校、岡山朝日高校、岡山大学教育学部卒業。99年より福島県で農業研修。4年間の大工修業の後、自宅を建て、大工として働く。2011年3月福島原発事故により一家で岡山に避難。5月「子ども未来・愛ネットワーク」を立ち上げ、避難移住者のサポートや福島の子どもの養育受け入れなどを行う。北区建部町に夫、3人の子供と暮らす。

大塚愛 いっぽ通信

岡山県議会議員

大塚愛 県政レポート[第7号]

発行：2018年7月(2018年6月議会報告)

—

最新情報を発信しています

Facebook:

・みどり岡山

www.facebook.com/greenokayama

・大塚愛

www.facebook.com/ohtsuka.ai.3

●みどり岡山ホームページ:

http://midori-okayama.org

【事務所】

〒700-0971

岡山市北区野田5-8-11

Tel:086-244-7721

Fax:086-244-7724

e-mail:info@midori-okayama.org

http://midori-okayama.org/

【自宅】

〒709-3122

岡山市北区建部町吉田321

携帯:070-5056-3808

e-mail:ai@midori-okayama.org



➤ の度の豪雨災害で被害にあわれた方々へ、心よりお見舞い申し上げます。(関連記事はP4)

6月の県議会では、「足守・大井・栗井地区のメガソーラー計画」の開発不許可を求める陳情が出されました。

岡山後楽園の約6倍という巨大なソーラーパネルが山の斜面に並ぶこの計画は、昨年7月に業者による説明会が開

かれましたが、土砂災害の危険などに住民の方たちは大きな不安をもち、勉強会や署名活動を重ねてこられました。

この陳情に対して、委員会で継続審査とされたため、県議会の採決にあたり採択すべきという立場で討論をしました。

開発許可に反対する理由としては、①過去に大きな土砂災害が起こった地区であり、森の伐採によりその危険



環境や地域と共生できる自然エネルギーにしていきたい、何が必要でしょうか

性が高まること、②巨大なパネルは、日本遺産となった鬼ノ城からも見える位置にあり、住民にとっても観光客にとっても

景観を損なうおそれがあること、③種の保存法で指定されたスイゲンゼミタナゴやホタルへの影響を慎重に審査すること、④住民から出された質問に対して、回答がないまま1年が経っており対応が十分でないこと、などを挙げました。議場で知事は深く傾きながら聞いておられました。

来年4月より岡山市が環境アセスの実施を決めたことは大きな一歩ですが、足守の計画に適用されるかどうか、まだ

県政レポート(2018年7月発行) [第7号]



いっぽ通信

P.04 地域防災の見直しと、力をあわせた復興を
日々のうごき(2018年4月～7月)

P.01 「足守・大井・栗井地区メガソーラー計画」を不許可に

P.02-03 「妊娠した高校生の支援について」など質問しました
愛ちゃんがゆく! ―県議体験記―「6回目のプレゼント」



里山の保全活動にも取り組まれています@大井地区

未確定な状態です。

この度の豪雨災害でも、姫路市内の太陽光発電所で大きな山崩れが起きています。大規模に山を伐り拓くメガソーラーについては問題が各地で顕在化してきていますが、持続可能な社会のために自然エネルギーは欠かせないものです。今後は、環境アセスや景観条例などを整備した上で、地域と共生できる小規模分散型の自然エネルギーを進めていくことが大事ではないでしょうか。

日々のうごき

2018年4月～7月



- 4.13 常任委員会(土木)、ひょうたん池の話し合い
- 4.14 加茂川ホリデイフォレスター、「被ばく牛と生きる」上映会
- 4.19 河川の勉強会
- 4.21 たけべおこしミーティング
- 4.22 JDS岡山支部総会
- 4.23 建部町酪農組合総会
- 4.25～26 長野県庁&エネコホールディング研究所@山梨視察
- 4.27 常任委員会(土木)
- 4.29 メガソーラー問題の勉強会@足守
- 5.2 エネルギー政策意見交換
- 5.5 金光教岡陽教会大祭
- 5.15 県議会臨時会、ばらママ訪問

- 5.18 常任委員会(総務)
- 5.19 だっぴ30×30
- 5.20 御津将棋大会
- 5.22 特別委員会(教育再生・子ども応援)
- 5.23 総社市(雪舟君&給食センター)視察
- 5.24 たけべ部ミーティング
- 5.25 常任委員会(総務)、ヘルプマークのお話
- 5.26 福祉オンブズマン総会、障がい者の働く現場のお話会
- 5.27 きたながせスーパ@北長瀬公園予定地いも畑
- 5.28 フードバンクおしゃべり会、県政・市政おはなし会@御南西公民館
- 5.29 福島原発おかやま訴訟
- 5.30 御津産廃のお話@備前県民局
- 6.1 みんなの集落研究所総会
- 6.3 「子どものからだと心」西日本研究会@中国学園大学

- 6.5 子ども未来・愛ネットワーク総会
- 6.7 6月議会開会
- 6.9 みどり岡山総会&ワークショップ、宇甘西地区ホテル祭り
- 6.12 代表質問(中川雅子議員)
- 6.15・19～21 一般質問(6月20日登壇)
- 6.17 冒険遊び場づくり&オレンジリボンフォーラム
- 6.18 ペンギンプロジェクト定例会
- 6.23 DV防止サポートシステムにつなぐ会総会、足守メガソーラー勉強会
- 6.28 建部町身体障害者福祉協議会総会
- 6.29 6月議会閉会(反対討論)
- 7.1 建部里山しろみて祭り
- 7.2 立憲自治の会世話人会
- 7.5 種子法の話@岡山県農業研究所
- 7.8～ 豪雨詐欺の視察・ボランティア作業

6月定例会一般質問
（2018年6月20日登壇）

「妊娠した高校生の支援について」など質問しました

妊娠した高校生の支援について

妊娠・出産を理由に高校中退することは、次の世代の貧困を生み出す要因と考えられ、今年3月に文科省は教育委員会に対して、妊娠を理由に安易に退学させないよう通達を出しています。適切な支援のために、具体的な質問や提案をしました。

Q. 県内の調査で把握した事例のうち、妊娠を理由に高校を中退した生徒は何割ですか？

A. 約4割。やむを得ず退学を勧めた事例もあったが、退学後のための情報提供をした。

Q. おかやま妊娠・出産サポートセンターの

カードの活用状況は？

A. 保健室に置いて生徒が持ち帰れるようにしたり、相談を受けた際に渡したりしている。

Q. 同センターのカードを薬局やコンビニエに置いてはどうか？

A. カードを置ける場



相談しやすい環境づくりのために、カードを薬局などに置いてもらいます

砂防指定地における産廃処分場建設について

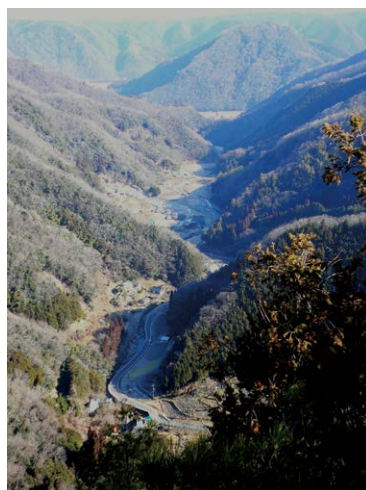
旭川の源流域のひとつ、岡山市御津虎倉地区に産廃処分場が計画されています。

Q. 砂防指定地であることを知っていながら許可なく建設を行ったことは、砂防指定地等管理条例に違反していると言えるか？

A. 条例違反をしているため、業者に中断を指導した。

Q. 水利組合など利害関係者の承諾を添付することを指導すべきだが？

A. 利害関係者の範囲を特定し、承諾書の添付を指導したい。



水源地の自然や安全を守るために、厳正な審査が求められます

所を増やせるように検討していく。

Q. 相談しやすい体制のためには、医療機関と学校の連携を進めてはどうか？

A. 地域の保健師が相談にあたる際に、養護教諭等が協力できるよう周知し、研修を行いたい。

Q. 出産後に保健師が支援する際に、学業などの情報提供もできるようにしては？

A. 市町村の相談窓口等などで関連情報のパンフレット配布やHPでの周知に努める。

Q. 身近な協力者がいない母子が困窮しないように、伴走支援ができる体制が構築することが必要だが？

A. 伴走支援を担う「子育て世代包括支援センター」が全市町村に設置できるよう、人材育成や情報提供をしていきたい。

Q. 出産後に通信制高校や、就労にあたって託児の支援も必要だが？

A. 就学も保育が必要と認定されており、ファミサポなどの制度も周知していく。

Q. 望まない妊娠を防ぐためには性教育の充実が必要であり、「未来のパパ&ママを育てる出前講座」等を増やしてはどうか？

A. 講座を今以上に活用してもらえよう、保健部局と県教委が連携して進めていく。



毎回たくさんのエネルギーを注いで議会質問に臨んできましたが、今回は様々な提案が進んだり、知事から思わぬ答弁があったり、手応えのある結果となりました。提案を進める原動力は、何より市民のチ

将棋文化について



知事を相手に、子ども達も負けじと頑張っていました

菅井王位などの影響を受けて、子ども将棋ブームが高まっています。5月に開催された御津将棋大会には知事も来られて、子ども達と楽しげに対局されていました。

Q. 将棋文化について、どのような文化価値があるかと考えるか？

A. 思考力などを高め、多世代交流や礼節を学ぶことができる優れた価値があると考えらる。(将棋好きの知事は満面の笑みで答弁した

め、議場に笑いが起きました)

Q. 中学校に将棋部を作りたいという声も増えているか？

A. 希望する中学校に、人材の情報提供などをしていく。

地域の多世代交流と繋がり創出

特定非営利活動法人「だっぴ」では、中学生と地域に住む大人の多世代交流の場として、「中学生だっぴ」を県内各地で開催しています。私も何度か参加していますが、幅広い年齢層、多様な職種の人たちが中学生に真摯に向き合い、様々な生き方や価値観を伝え、相互に交流できる貴重な活動だと感じます。

Q. だっぴの活動にどのような意義があるか？また、開催の促進をしてはどうか？

A. 参加者の地域社会への関心や課題解決の意欲を高め、多様な価値観に触れ、若

者が人生を前向きに捉えられるようになる意義があると考えます。他の市町村へ情報提供し、高校での成果も検証して紹介していきたい。

い。
Q. 学校の教員と地域をつなぐ取り組みにも活用してはどうか？

A. 昨年の社会教育法改正により、地域全体で子どもを支える活動が一層求められている。地域連携担当職員の研修でだっぴの活動を紹介し、教員と地域をつなぐ取り組みへの活用を研究していきたい。

「高次脳機能障がいのある方の自動車運転について」も質問しました。

*詳しくは、みどり岡山HPの動画をご覧ください。
<http://midori-okayama.org>



いろんな大人達との出会いと対話から、中学生はいろんなことを感じ取っているようです

第7話 6回目のプレゼント

カラだと感じます。様々な取り組みを頑張っている方たちの思いや考えが大きく、かつ合意形成できているほど、それらを伝える質問が県行政にとっても有効な提案になるのではと感じます。また、もっと「議員」という代弁者

を活用する人が増えるといいなと思います。

壇上のコップの水は未だに手が震えて注げませんが(笑)、これからよりよい代弁者&

つなぎ役になれるよう、がんばっていきなりたいと思います。

